

日本頭痛学会 喜多村賞

「日本頭痛学会喜多村賞」は、1996年(平成8年)第24回頭痛研究会(会長 松本清 昭和大学脳神経外科教授)より若手研究者の奨励を目的として創設されました。

この賞は1973年(昭和48年)に日本頭痛学会の前身となる「頭痛懇話会」を創設し、1984年(昭和59年)の第13回頭痛研究会に至るまで代表世話人として日本の頭痛研究・診療に多大な貢献をされた、故喜多村孝一先生(東京女子医科大学脳神経センター所長)を記念した賞です。

対象者:日本頭痛学会総会で発表された最も優れた演題の演者(発表時満40歳未満)に授与されます。

選考委員:選考委員長、副委員長、総会会長、前期会長、次期会長の5名

【事務局・お問い合わせ】

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル

(株)春恒社学会事業部内

TEL:03-5291-6231

FAX:03-5291-2176

e-mail:jhs-office@shunkosha.com

【歴代受賞者】

- 2001年度 横山 雅子 [救急搬送患者における頭痛](#)
- 2002年度 端詰 勝敬 [心療内科における頭痛患者の人格障害と社会的要因に関する検討](#)
- 2009年度 安藤 直樹 当院頭痛外来を受診した小児頭痛の分類と特徴
- 2010年度 渡邊 由佳 [片頭痛患者のオドボール課題におけるパフォーマンスの検討](#)
- 2011年度 鳥海 春樹 [TRPV1 受容体を介した三叉神経の侵害刺激が CSD 発生に及ぼす影響](#)
- 2012年度 北村 英二 [Chronic migraine のリスクとしての高レプチン血症と
塩酸アミトリプチリンによる CSD 抑制効果について](#)
- 2013年度 滝沢 翼 [TRPV1 刺激時の三叉神経脊髄路核における HMGB1 発現誘導](#)
- 2014年度 萱間 洋平 [炎症性メディエーター存在下における TRPM8 発現調節](#)
- 2015年度 重松 秀明 [片頭痛既往のある RCVS の検討—白質病変の合併頻度—](#)
- 2016年度 岩崎 晶夫 [当院における片頭痛患者の卵円孔開存の頻度と大脳白質病変に関する検討](#)
- 2017年度 安田 高志 [若年性片頭痛患者の大脳白質病変の進行に関する検討](#)
- 2018年度 椎名 智彦 [片頭痛患者の eLORETA を用いた脳活動変化の検討](#)
- 2019年度 邦武 克彦 [99mTc-ECD SPECT で示唆された RCVS における脳組織障害の遷延](#)
- 2020年度 城野 喬史 初期臨床研修医の頭痛診療 —アンケートからみえたこと—
- 2021年度 小山内 綾子 片頭痛発作を誘発する臭いについての検討